

官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM) 審査・評価委員会  
国立大学イノベーション創出環境強化事業分科会 概要

【令和3年度第1回分科会】

1. 日 時：令和3年8月6日（金）9：00～19：00
2. 場 所：オンライン（事務局会場：内閣府 中央合同庁舎第8号館6F 623会議室）
3. 議 事：
  - （1）審査・評価委員会と座長について
  - （2）採択から2年目のフォローアップに関する審査の進め方について
  - （3）採択から2年目各大学からのヒアリング
  - （4）採択から2年目のフォローアップ 審査結果について
  - （5）採択から3年目のアワードに関する審査の進め方について
  - （6）採択から3年目のアワード申請大学からのヒアリング
  - （7）採択から3年目のアワード 審査結果について
  - （8）採択から3年目のフォローアップ（アワード非申請大学）に関する審査の進め方について
  - （9）その他

4. 分科会委員 ※◎は座長（五十音順・敬称略）
  - 五十嵐 仁一（ENEOS 総研株式会社代表取締役社長）
  - ◎上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）
  - 岸本 康夫（JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監）
  - 本山 和夫（学校法人東京理科大学会長）
  - 渡辺 裕司（元株式会社小松製作所執行役員経営企画室副室長）

5. 評価方法 及び 配分案の決定方法

＜採択から2年目のフォローアップ＞

・委員は、フォローアップ調書、ヒアリング内容、及び、事務局が提示する基礎データ (i)、(ii) に基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示すとともに、審査観点(1)～(3)のそれぞれに関し、評定「A」（優れている）、「B」（良好である）、「C」（やや不十分である）、「D」（不十分である）のいずれかを付与する。

基礎データ

(i) 民間資金獲得額増加の実績：

令和2年度の前年度に対する伸び率【調書の記述に基づき事務局が集計】

(ii) 共同研究の直接経費に対する間接経費の割合の実績：

令和2年度の実績値及びその前年度からの伸び【財務諸表に基づき事務局が集計】

・審査観点は以下のとおりとする。

(1) 民間資金獲得額増加のための取組の実施状況：

- 計画に示した取組を着実に実施したか。

- 計画を実現するためのガバナンス強化など経営基盤の強化につながる取組を実施できたと認められる場合には、評価を高めるよう考慮する。

(2) 令和3年度以降の民間資金獲得額増加に向けた計画の妥当性と具体性、実現可能性：

- 計画変更がされている場合、変更後の計画は具体的かつ実現可能なものか。
- 計画変更がされていない場合、直近の状況等を考慮しても計画を変更しないことが妥当であるか。

(3) 交付金の活用状況：

- イノベーション創出環境強化や大学の経営基盤強化に資する取組のために交付金を活用できたか。
- 一過性のものでなく、エコシステムを確立し、持続可能なイノベーション創出環境を実現するために活用できたと認められる場合には、評価を高めるよう考慮する。

・以下の場合には、事務局は委員会に対して、交付金の減額を提案する。

- ✓ 民間資金獲得額増加の実績が合理的な理由なく著しく低い場合。
- ✓ 観点(1)～(3)について委員によって付与される評価の総数（観点3個×出席委員数）に対し、D評価の数が過半数の場合。

・委員の協議により、ガバニングボードに提示する配分額案を決定する。

<採択から3年目のアワード（追加交付金）>

・委員は、フォローアップ調書、ヒアリング内容、及び、事務局が提示する基礎データ(i), (ii)に基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示すとともに、審査観点(1)～(4)のそれぞれに関し、評価「A」（優れている）、「B」（良好である）、「C」（やや不十分である）、「D」（不十分である）のいずれかを付与する。

基礎データ

(i) 民間資金獲得額増加の実績：

令和2年度の平成30年度に対する伸び率【調書の記述に基づき事務局が集計】

(ii) 共同研究の直接経費に対する間接経費の割合の実績：

令和2年度の実績値及びその平成30年度に対する伸び【財務諸表に基づき事務局が集計】

・審査観点は以下のとおりとする。

(1) 民間資金獲得額増加のための取組の実施状況：

- これまでの延長線上での取組ではなく他大学を先導するような先端的な取組を実施できたか。
- 取組の結果として、採択から2年間にわたって継続的に民間資金獲得金額を増加させることができたか。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により民間資金獲得金額が伸び悩む状況に際して、新たな方策を採用し、状況を改善できたか。

(2) 令和3年度以降の民間資金獲得額増加に向けた計画の具体性、実現可能性：

- 民間資金獲得のための取組は具体的か。
- その取組は実現性があり、大学の財政基盤強化に資する民間資金の獲得が期待されるものか。
- 採択された令和元年度以後の大学の収支全体や民間資金獲得状況の変化を踏まえ、既存の取組の拡充や新たな取組の追加により、民間資金獲得金額を令和2年度実績からさらに上積みすることが期待できる計画で

あるか。

(3) 交付金の活用状況：

- イノベーション創出環境強化や大学の経営基盤強化に資する取組のために交付金を活用できたか。
- 一過性のものでなく、エコシステムを確立し、持続可能なイノベーション創出環境を実現するために活用できたか。

(4) 本事業の効果：

- アワードに当該大学が採択されることで、他大学の模範となる等、政策的な効果が期待されるか。

・委員の協議により、ガバニングボードに提示する配分先・配分額案を決定する。

### 【令和3年度第2回分科会】

1. 日 時：令和3年8月25日（水） 書面による開催

2. 議 事：

（1）採択から3年目のフォローアップ（アワード非申請大学）についての書面による審査

3. 分科会委員

令和3年度第1回と同じ。

4. 評価方法

- ・委員は、フォローアップ調書、及び、事務局が提示する基礎データに基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示す。基礎データは、アワード申請大学についてのデータと同種。

### 【令和3年度第3回分科会】

1. 日 時：令和3年8月30日（月） 13:00～19:00

2. 場 所：オンライン（事務局会場：内閣府 中央合同庁舎第8号館6F 623会議室）

3. 議 事：

（1）新規採択に関する審査の進め方について

（2）新規採択 申請大学からのヒアリング

（3）新規採択 審査結果について

（4）その他

4. 分科会委員

令和3年度第1回と同じ。

5. 評価方法 及び 採択候補大学の選定方法

- ・委員は、計画調書、及び、ヒアリング内容に基づき、優れた点などについて、所見を示すとともに、審査観点(1)～(4)

のそれぞれに関し、評定「A」（優れている）、「B」（良好である）、「C」（やや不十分である）、「D」（不十分である）のいずれかを付与する。

・審査観点は以下のとおりとする。

(1) 大学の財務構造の適正な把握

- これまでの大学の支出、収入の分析を基にして、大学の財務構造の現状ならびに課題を適切に把握しているか。

(2) これまでの成果・実績

- これまでの外部資金獲得の増加に向けた改革の取組は、効果的なものであったか。
- これまでの成果・実績を踏まえて、今後の計画が実現可能と判断されるか。

(3) 今後の民間資金獲得額増加に向けた計画の妥当性と具体性、実現可能性

- 大学の経営計画に沿った民間資金獲得のための取組は具体的か。
- その取組は実現性があり、大学の財政基盤強化に資する民間資金の獲得が期待されるものか。
- 計画する民間資金獲得のための取組実施を担保するガバナンス体制が整備されているか。
- 新型コロナウイルス感染症による獲得資金減少の可能性を考慮している場合、計画が、民間資金獲得を増加へと導く方策について具体的かつ実現可能なものか。

(4) 本事業の効果

- 本事業に当該大学が採択されることで、当該大学の経営に強いインパクトを与え、取組を加速させるなど、政策的な効果が期待されるか。

・採択候補大学の選定方法は以下のとおりとする。

一次審査、二次審査ともに満点を 30 点に設定する。一次審査と二次審査の合計点で順位付けし、令和 3 年度は上位大学 4 校（国立大学運営費交付金の重点支援①及び②の大学 2 校、重点支援③の大学 2 校）を選出する。